

人間科学部 人間科学科

教育研究上の目的

本学部は、人間の心身と人間社会に対する多角的・総合的思考を涵養し、人間環境の質の向上と、健康で心豊かな生活を保障する社会の確立に貢献できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学部では、今日の社会・産業・教育のグローバル化・国際化の時代において、多くの現象及び問題がそれぞれ独立したものではなく有機的に関連しあっている実情に対して、多角的・総合的な思考のもと積極的にアプローチができる人材を育成します。

そのために共通教養系科目のFYS(First Year Seminar)の後継科目としての基礎ゼミナール、及び専門ゼミナールⅠ・Ⅱさらに卒業研究(以上、いずれも必修)という一貫した少人数教育とともに全員必修の情報処理の科目及び語学教育を通して、他者とのコミュニケーション能力、情報処理能力及び語学力を育成します。またこれらの科目の学修を通して、3コースのキーワードである「こころ」、「からだ」、「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し、その解決に向けてさまざまな発信・提案ができる能力を涵養することを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学科のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、学士(人間科学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1)人間の多様性に関わった健康で心豊かな社会の確立のために、自己と他者とのつながりを感じ、他者と協力しながら問題解決に当たる行動力を有している。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1)人間や社会及び自然について豊かな教養を身につけ、さらに国際的な視野に立って物事を考えることができる能力を身につけている。

(2)自己の心身をよく認識し、それをさまざまな形で表現し、他者に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1)人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解するとともに、人間が形成する「社会」の仕組みについて客観的な認識ができ、それらを多角的・総合的に捉える思考力を身につけている。

(2)「こころ」、「からだ」及び「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し、その具体的な解決に向けてさまざまな提案ができる発信力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学科では、人間の心身と人間社会に対する多角的・総合的思考を涵養し、健康で心豊かな生活を保障する社会の確立に貢献できる人材を育成するため、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1)1学部1学科とし、そのもとに心理発達、スポーツ健康及び人間社会の3コースを置いています。学

生は多角的・総合的思考ができるように、コースの垣根を越えて、どのコースの開講科目も履修できます。さらに人間科学部で身につけられる12の力(対人関係力、自己管理力、批判的思考力、認知と行動を理解する力、成長発達を支援する力、豊かな人間関係を築く力、健康に生きる力、人を魅きつけ導く力、スポーツ文化を支え発信する力、社会の構造と実態を理解する力、地域社会を調査し分析する力、人と社会との関わりを創造し発信する力)を設定したうえで、それらの力を身につけるための履修系統図を明示しています。

(2)全学共通の教養教育及び外国語科目と人間科学科の専攻科目とを有機的に関係づけることにより、豊かな教養と国際的な視野に立った思考力及び専門的な洞察力が相乗的に身につくように編成されています。

(3)各コースの特徴は以下のとおりです。

- ①心理発達コースでは、心理・発達・教育の視点から、人間のこころの発達や特性について学びます。まず心身両面から自己を再確認し、それを他者理解、対人能力の向上へとつなげていきます。基礎的学修に加え、実験・実習を組み入れ、さらに犯罪被害者や災害被害者の心理学、高齢者や障がい者の心理学、ライフデザインや健康のための心理学、公認心理師対応科目等、応用的な学修にも力を入れています。
- ②スポーツ健康コースでは、「からだ」を柱として、「健康に生きる力」、「人を魅きつけ、導く力」、および「スポーツ文化を支え、発信する力」の3つの能力を身に付けることを狙いとしています。スポーツの幅広い教養とスキルにヒューマンマインドを兼ね備えたグローバルな人材の育成に重点を置いています。
- ③人間社会コースでは「こころ」と「からだ」をもつ人間が形成する「社会」という軸に焦点をおき、「社会的存在としての人間」の側面に着眼して学修していきます。「人間」と「社会」の相互形成や多様化していく現代社会及び地域・国際社会についての理論を学ぶとともに、初年次から履修可能な必修の「社会調査論Ⅰ・Ⅱ」を通して実証的に学ぶことにも重点をおき、主体的に問題を発見し、社会に積極的に提案する実践力や企画力を持った人材を養成します。

2. 教育の方法と評価

- (1)大学における初年次教育である1年次前学期の「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」に続き、1年次後学期に「人間科学基礎ゼミナール」を配置し、教養教育から専門教育へのスムーズな移行を促進しています。
- (2)人間科学科の専攻科目については、1年次必修の「人間科学概論」や「情報処理Ⅰ・Ⅱ」等の基礎科目から基幹科目さらに展開科目へと年次進行にしたがって体系的に学ぶことができるように配置されています。
- (3)個人の表現能力、発信力及びコミュニケーション能力を高めるため、本学科では少人数双方向教育を重視する。そのために1年次の「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」、「人間科学基礎ゼミナール」に引き続き、2年次に「人間科学専門ゼミナールⅠ」及び3年次に「専門ゼミナールⅡ」を配置し、必修科目としています。4年次必修の「卒業研究」では、専門教育の集大成として自らが設定した卒業研究の企画及び問題解決のための方法、結果の分析等が求められます。
- (4)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

1. 大学教育によって培う能力

- (1)本学科は、人間や社会及び自然に関する豊かな教養と、グローバルな視野と接近してフォーカスする視点を身につけ、「こころ」、「からだ」及び「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し、その具体的な解決に向けてさまざまな提案ができる人材の育成を目指します。

2. 本学部の求める入学者

- (1)本学科での学修に必要な基礎的学力を十分に備えている人。
- (2)「こころ」、「からだ」、「社会」の観点から、人間に対して深い理解を得たいという強い意欲を持っている人。
- (3)人間を取り巻くさまざまな問題を解決し、社会に貢献できる実践力を身に付けたいという強い意欲を持っている人。

3. 高校までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1)科目受験型入試として、給費生試験・一般入試・大学入学共通テスト利用入試があり、本学部での学修に必要な基礎学力を十分に備えていることを、高等学校での学習の到達度をもとに判断します。ただし、給費生試験では書類審査を含めて総合的に判断します。
- (2)学校推薦型選抜である指定校制推薦入試と、総合型選抜、公募制推薦入試(スポーツ・音楽推薦)があります。指定校制推薦入試では、勉強意欲に富み、指定校の学校長から推薦された者に対し、面接により選考をおこないます。総合型選抜では、本学において積極的に学ぶ意志を持つ者に対し、小論文、面接または適性検査等により選考を行います。公募制推薦入試(スポーツ・音楽推薦)では、学業以外に募集対象部の活動で優れた実績を上げたことが客観的に証明され、大学教育を受けるに必要な学力を有する者で、入学後も学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ者を選考します。